

小中一貫教育PDCAサイクルマネジメント

【取組評価指標例】
 学校評価、全国学力・学習状況調査、児童生徒質問紙、沖縄県学力定着状況調査、県版児童生徒質問紙
 問題行動・不登校等生徒指導上の課題に関する調査など ※赤字は全教職員参加による取組

月	各グループ・学校	市教育委員会
1～3月	□合同研修会(後期)の実施 ・本年度の取組評価・次年度の方針等 ・各種調査等の客観的な分析、改善策の検討	【3月】 小中一貫教育コーディネーター研修会⑤
4～7月	□校内体制の整備(全校体制に向けての組織整備) □各グループでの体制整備 □合同研修会(前期)の実施 ・各小・中学校の児童生徒の実態把握 ・「目指す子どもの姿」の確認 ・年間計画の確認 ・共通実践事項の確認 ・ 小中合同授業研究会の実施 ◆学校評価(1回目)	【4月】 小中一貫教育コーディネーター研修会① 【5月】 小中一貫教育アンケート① 【7月】 小中一貫教育コーディネーター研修会②
夏季休業	□合同研修会の実施(中期)の実施	
9～12月	□小中合同授業研究会の実施 ◆学校評価(2回目)	【10月】 小中一貫教育コーディネーター研修会③ 【12月】 小中一貫教育コーディネーター研修会④ 小中一貫教育アンケート②

組織・運営に関すること

各グループ・学校

合同研修会

- 対象:グループ教職員、コーディネーター
- 回数:グループの状況に応じて設定
- 内容:各校の実態共有、「目指す子供像」の確認
年間計画の策定、共通実践事項の確認
取組の評価、次年度に向けて、その他

合同授業研究会

- 対象:グループ教職員、コーディネーター
- 回数:グループの状況に応じて設定
- 内容:グループの実態の応じた内容

グループ管理職(校長・教頭)会

- 対象:グループ管理職(校長・教頭)コーディネーター
- 回数:必要に応じ開催
- 内容:各校の取組共有、情報交換

市教育委員会

小中一貫教育コーディネーター研修会

- 対象:小中一貫教育コーディネーター
- 回数:年5回(実施要項で確認)
- 内容:第4ステージの取組、コーディネーター業務確認、グループの計画報告、進捗状況等
※詳細は実施要項で確認

成果報告会

- 対象:小中一貫教育コーディネーター
- 回数:年1回(実施要項で確認)
- 内容:グループの成果報告

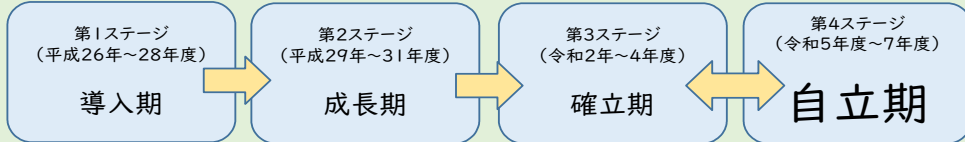


那覇市教育委員会ポータルサイトにアクセスすると小中一貫教育の資料等を確認することができます。



那覇市の小中一貫教育

小中一貫教育のこれまでの取り組みと第4ステージの方向性



那覇市ではこれまで、知・徳・体のバランスの取れた教育を展開し、自ら高め、健全でたくましく「生きる力」をもった児童生徒の育成に努めてきました。

しかし、中学進学時の不登校や問題行動の増加、学習意欲の低下等様々な課題が生じたため、平成24年度より小中一貫教育を導入し、課題解決を図ってきました。

これまでに「導入期・成長期・確立期」と実施し、小学校と中学校でつながりを意識した教育活動を展開することで、那覇市小中一貫教育の評価指標である全国学力・学習状況調査の平均正答率の向上や問題行動の数値において改善が見られることから、小中一貫教育を行うことが一定の効果をもたらしていると考えられます。

「自立期」においては、各中学校グループが自らの児童生徒の実態を踏まえ、義務教育9年間を通じて育成を目指す子どもの姿(資質・能力)を明確にし、発達段階に応じた指導・支援を行うことで、主体的に取り組む教育を展開していきます。

第4ステージ(自立期)取組の具体

学校の取組

取組のイメージはp2～p3に記載

- 「グループ管理職(校長・教頭)会」「合同研修会」「合同授業研究会」を開催し、各グループにおける重点化する資質・能力や教育目標を共有し「目指す子どもの姿(資質・能力)」を掲げること。
- 「学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力)」の具体を検討し、その育成に向けて各教科や発達段階に応じた指導の在り方を考えるなど、指導の工夫・改善を図ること。
- 「学力の向上を支える支持的風土づくり」に向けては、「安心」「所属」「承認」「自立」の4つのポイントを念頭に置いた具体的な取組を推進し、非認知能力を育むこと。

コーディネーターの役割

- 合同研修会、合同授業研究会の計画・運営
- 計画的な学習指導の計画
- 交流活動の計画
- *上記について毎年度教育計画に意図的、計画的に位置づけ実施する

市教育委員会の支援

- 校長連絡協議会、教頭連絡会等での周知
- 各中学校グループ訪問
- 小中一貫教育コーディネーター研修会の実施
- 小中一貫教育アンケートの実施、分析(年2回)
- 各中学校グループの進捗状況の把握、支援

評価指標(市教委)

※「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」

評価指標	目標値(令和7年度まで)
「全国学力・学習状況調査」の平均正答率 ※全国平均正答率との差	(小)国語・算数 全国平均以上 (中)国語・数学 ±0
※1「問行調査」の「不登校児童生徒のうち学校内外の機関等で相談・指導を受けている児童生徒数」の割合	(小)82% (中)85%
「小中一貫教育アンケート(年2回実施)」の「学校生活が楽しい」※「あてはまる」の数値	(小)68% (中)62%

目指す子どもの姿(資質・能力)

「学習の基盤となる資質・能力(言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力)」の具体を検討し、その育成に向けて各教科や発達段階に応じた指導の在り方を考えるなど、指導の工夫・改善を図ること。

例:「言語能力の育成」、「情報活用能力の育成」、「問題発見・解決能力の育成」の中からグループの課題に応じて、重点的に取り組む内容を1つ以上選択し、取組を推進する。

「学力の向上を支える支持的風土づくり」に向けては、「安心」「所属」「承認」「自立」の4つのポイントを念頭に置いた具体的な取組を推進し、非認知能力を育むこと。

例:「安心」「所属」「承認」「自立」の4つのポイントの中からグループの課題に応じて、重点的に取り組む内容を1つ以上選択し、取組を推進する。

「学習の基盤となる資質・能力」で『つながる』

言語能力の育成

情報活用能力の育成

具体(例)

非認知能力(例)

自立

自分の良さを生かした
目標設定

- キャリアパスポート
- 「か・ふ・や・み」
- 自学自習(家庭学習)

目的意識
・
メタ認知
・
自学自習力



自学自習のお手本掲示(真嘉比小)

承認

教師・友だち・保護者
からの承認・勇気づけ

- 指導に生かす評価
- 個人内評価
- 児童生徒間「相互評価」
- キャリアガイダンス

自己肯定感
・
他者理解



児童間の相互評価(松川小)

所属

役割・つながりの
「しかけ」(絆づくり)

- 自発的・自治的な児童会・生徒会活動
- 合意形成・意思決定に基づく学級活動
- 生徒指導の4つのポイント

主体性
・
協働性



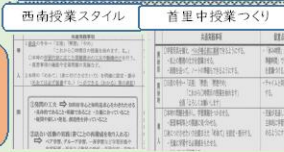
いじめ撲滅宣言(仲井真中)

安心

安全・安心な風土の
醸成
(居場所づくり)

- 学習スタンダード
- 生活規律
- 共通実践事項

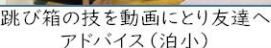
規範意識



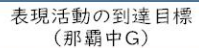
発達段階に応じた学習スタイル(首里中G)

学年	読むこと	書くこと	読むこと
3年	漢字のつくりや読みかたを正確に読み取ること。漢字の読みかたや読みかたの異なる漢字を区別して読み取ること。	漢字のつくりや読みかたを正確に書くこと。漢字の読みかたや読みかたの異なる漢字を区別して書くこと。	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。
2年	漢字のつくりや読みかたを正確に読み取ること。漢字の読みかたや読みかたの異なる漢字を区別して読み取ること。	漢字のつくりや読みかたを正確に書くこと。漢字の読みかたや読みかたの異なる漢字を区別して書くこと。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。
1年	漢字のつくりや読みかたを正確に読み取ること。漢字の読みかたや読みかたの異なる漢字を区別して読み取ること。	漢字のつくりや読みかたを正確に書くこと。漢字の読みかたや読みかたの異なる漢字を区別して書くこと。	文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
表やグラフを用いた統計的な情報の整理 電子ファイルの運用 情報のシステム化に関わる基礎的な技術の仕組み クラウドを用いた協働作業 安全・適切なプログラムによる表現及び発信の方法	目的に応じて考えるための方法を組み合わせて活用したり、整理したりする。 目的や場面に応じて情報を統合して整理し、プレゼンテーション、WEBページ、SNS等やプログラミングによって表現、発信、創造する。	情報や情報技術により豊かな生活や持続可能な社会の構築に活かすこととする。 情報モラル、情報セキュリティの確保等について考え、行動しようとする。 情報社会における自分の責任や義務について考え、行動しようとする。



跳び箱の技を動画にとり友達へアドバイス(泊小)



表現活動の到達目標(那覇中G)

解説:国語編「思考力・判断力・表現力等」の形成

情報活用能力の体系例(文部科学省)

問題発見・解決能力の育成

①課題の設定	②情報の収集	③整理・分析	④まとめ・表現
より複雑な問題状況 確かな見通し、仮説	より効率的・効果的な手段 多様な方法からの選択	より深い分析 確かな根拠づけ	より論理的
例 ■問題状況の中から課題を発見し設定する ■解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる など	例 ■情報収集の手段を選択する ■必要な情報を収集し、蓄積するなど	例 ■問題状況における事実や関係を把握し、理解する ■多様な情報にある特徴を見付ける ■事象を比較したり関連付けたりして課題解決に向けて考える など	例 ■相手や目的を表現する ■学習の過程や生活課題解決に向けて考える など

解説:総合的な学習の時間編「探求の過程における思考力、判断力、表現力等の深まり」

児童生徒が『つながる』

・児童生徒の交流活動
・体験授業



合同あいさつ運動(神原中G)

美術作品巡回展示(金城中G)

体育科教諭による指導(石田中G)

教職員が『つながる』

・合同研修会、合同授業研究会(児童生徒の良さや課題の共有)
・支援を必要とする児童生徒についての情報交換会(途切れない支援)



合同研修会(鏡原中G)

合同授業研究会(小祿中G)

Gの職員会議へ参加し情報共有※生徒指導面(真和志中G)

学校・家庭・地域が『つながる』

・各グループの小中一貫だよりの発行
・地域行事への参加



小中一貫だより(神原中G)

グリーン活動(石嶺中)

地域行事への参加(城岳小)